|  |
| --- |
| **このテンプレートについて**   * 冊子掲載時の二段組レイアウトの概要を確認いただけるテンプレートです．本テンプレートにご執筆後，そのままご提出いただけます．記載例は消去してください． * 実際の誌面では，文章量などによって若干文字詰めや配置が変わりますが，図表挿入やページ数計算の，大体の目安としてご利用いただけます． * 図表の元データは，別ファイル（PowerPoint，Word等）に貼り付けてご提出いただくことも可能です． * 本テンプレートの構成 * 1ページ目：表題等を入力 * 2ページ目：要旨，キーワード，抄録を入力（必要な記事の場合） * 3ページ目～：本文を入力 |

|  |  |
| --- | --- |
| 必須 | **記事の種類**（論文，総説など） |
| 例．論文 |
| 必須 | **表題**（和文．全角25文字以内） |
|  |
| 任意 | **副題**（和文．全角25文字以内） |
|  |
| 必須 | **Title**（英文．単頭語は大文字．20語以内） |
|  |
| 任意 | **Subtitle**（英文．単頭語は大文字．20語以内） |
|  |
| 必須 | **著者名† ［著者名ふりがな］** |
| 例．環境太郎**†**・安全一郎**†**［かんきょう　たろう・あんぜん　いちろう］ |
| 必須 | **Authors†**（英文著者名．First Name Family Nameの順で，最初のみ大文字） |
| 例．Taro Kankyo **†** and Ichiro Anzen **†** |
| 任意 | **連絡先氏名**（筆頭著者でない場合に記載） |
|  |
| 必須 | **† 所属機関名**　※論文，技術ノートの場合は英文も必要 |
| 例．安全大学工学部**†**  例．Faculty of Engineering, Safety University, **†** |
| 必須 | **所属機関所在地**※論文，技術ノートの場合は英文も必要 |
| 例．〒123-4567　東京都中央区港1-1  例．1-1 Minato, Chuo-ku, Tokyo, 123-4567 JAPAN |
| 必須 | **E-mail（半角）**  **誌面への掲載を： 希望する ・ 希望しない**  （いずれか片方を削除） |
| 例．kankyo@anzen-u.ac.jp |
|  | ※事務局記入欄　　　年　　月　　日  原稿受付 |

**要旨とキーワード**

**要旨とキーワードが必要な記事の種類**

総説，論文，技術ノート，資料，災害事例分析

※以下の記事では要旨とキーワードは不要です．

安全への提言，トピックス，災害事例，事故・災害ニュース，我が社の環境安全活動，研究施設・研究活動紹介，学術活動報告，新製品紹介，談話室，安全工学用語，その他（論説，評論など）

**抄録**

|  |
| --- |
| **要旨**：本文を参照しなくても要旨のみで内容がつかめるように，和文の場合は360文字以内，英文の場合は300語以内に纏めて書く． |
|  |
| **キーワード**：5語以内 |
|  |

**抄録が必要な記事の種類**

論文，技術ノート

|  |
| --- |
| **抄録：**論文の場合には300語（英文時）または360字（和文時）以内．技術ノートの場合には200語（英文時）または240字（和文時）以内とする． |
|  |
| **キーワード**：5語以内(単語頭は大文字) |
|  |

※本文が和文の場合は英文，本文が英文の場合は和文で書く．

ここから本文を記入ください．

**＜要旨・キーワード 表示箇所＞**

* レイアウト確認用のスペースです．本欄に要旨・キーワードを記入する必要はありません．
* 文章量によって，行数は若干異なります．
* 記事の種類が以下の場合，要旨とキーワードは不要のため，本欄は削除して構いません．

安全への提言，トピックス，災害事例，事故・災害ニュース，我が社の環境安全活動，

研究施設・研究活動紹介，学術活動報告，新製品紹介，談話室，安全工学用語，

その他（論説,評論など）

**（本欄の移動・削除不可）**

**＜表題・著者名等表示箇所＞**

* レイアウト確認用のスペースです．本欄に表題や著者名を記入する必要はありません．
* 副題の有無などによって，行数は若干異なります．

＊2段組み．1段 = 22文字 × 47行（目安）

1．大項目

1.1 中項目

1.1.1 小項目

(1) 細項目

・箇条書き

**＜著者所属先名・所在地表示箇所＞**

※文章量によって，行数は若干異なります．

**（本欄の移動・削除不可）**

参　考　文　献

以下，例．

1) 環境太郎，環境被害に関する研究，安全工学，45-1，pp.44-48 (2006)

2) Johnson, D.A., Experimental Study of Burning Velocity, Comb. Rev., 88-1, pp.1-6 (1998)

3) 安全工学協会編，新安全工学便覧，pp.162-174，コロナ社 (1999)

4) Thomas, M.G. and James, A.G., The Reliability of Analysis, pp.143-144, A Publishing, London (1998)

5) 会誌"安全工学", <http://www.jsse.or.jp/publication/>